

<報 告>

広島大学ダイバーシティ & インクルージョン推進機構特別支援教育実践センター 令和5年事業報告

I. はじめに

本センターは、特別支援教育分野に関する基礎的・実践的研究を推進するとともに、教育相談や研修活動等を通じて地域社会に貢献することを目的としている。ここでは、本センターが実施している教育相談・臨床活動、研究活動、研修活動および地域貢献活動について報告する。

II. 令和5年事業報告

1. 教育相談・臨床活動

令和5年1月1日から12月31日までに、特別支援教育実践センター職員、および教育相談員として特別支援教育学領域教員が実施した教育相談・臨床活動の障害種別の実績を Table 1に、年齢別の実績を Table 2に示した。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止策が解除され、対面による教育相談の実施を再開した。一方で、新型コロナウイルス感染拡大防止のために開始したオンラインによる教育相談についても、特に遠方からの相談者からは要望が多く、継続して実施し

Table 1 教育相談・臨床活動の件数（障害種別）

	対面	対面以外（OL等）
視覚障害	32	4
聴覚障害	5	0
知的障害	67	0
肢体不自由	8	0
言語障害	58	17
発達障害	339	102
その他	0	0
合計	509	123

Table 2 教育相談・臨床活動の件数（年齢別）

	対面	対面以外 (OL・電話)
0～6歳（乳幼児期）	24	0
6歳～12歳（学童期）	219	10
12歳～15歳（青年前期）	198	92
15歳～18歳（青年中期）	17	5
18歳以降（成年期）	51	16
合計	509	123

た。なお、オンラインによる教育相談についても、対面による教育相談とはほぼ同質のため、今年度中の有料化を目指したが、クリアすべき課題が多く、来年度より実施予定である。対面による相談者の居住地域は広島県内を中心としている（東広島市、呉市、広島市）が、国外や県外からも来所者がある。電話相談では、県内をはじめ幅広い地域からの相談に対応した。広島市や呉市の眼科、内科にて出張教育相談も複数回行った。また、広島県内の小・中・高等学校の教員に対するスーパーバイズを行った。広島県内の特別支援学校特別支援学校技能検定の実施協力や、その機会を利用した本学学生向けのキャリア教育・職業教育に関する学習機会の提供なども複数回実施した。

2. 研究活動

(1) 広島大学大学院教育学研究科附属特別支援教育実践センター研究紀要第21号を発行した。受理された原稿は、原著論文4編、実践研究4編、資料2編であった。

(2) 教師教育デザイン学プログラムの教員の協力を得て、広島大学が実施する履修証明プログラム「特別支援教育担当教員育成プログラム（基礎コース）」を4科目開設し、7名の受講登録があった。（令和3年度より実施）

(3) 附属東雲小・中学校と連携し、共同研究「教科等本来の無力に迫るための教師の資質能力Ⅱー児童・生徒の変容の見取りを通してー」を実施した。

(4) 文部科学省「令和5年度特別支援教育に関する実践研究充実事業（その他施策上の改善のための調査研究）」に採択され、広島県教育委員会、国立特別支援教育総合研究所西日本ブランチ広島オフィスと連携しながら、「コアカリ対応特別支援学校教諭免許状認定講習プログラム」の開発に向けてニーズ調査や講習等を実施した。

(5) 広島大学教育ヴィジョン研究センター（Educational Vision research Institute: EVRI）や広島市立広島みらい創生高等学校、広島市立井口中学校、広島市立皆実中学校、広島大学附属東雲中学校と連携し、公益財団法人日本生命財団助成による「学びのユ

ニバーサルデザインに基づく日本型インクルーシブ教育システムのロールモデルの開発」を実施した。

(6) 文部科学省「音声教材の効率的な製作方法等に関する調査研究」事業を受託し、広島大学図書館と協力して、センターの利用者をはじめ、全国135名の利用者に音声教材 UD-Book 教科書を累計616点(162タイトル)出荷し(令和5年11月14日現在)、利用状況を調査した。(令和元年度より受託)

(7) 文部科学省「ICTを活用した障害のある児童生徒等に対する指導の充実事業」を受託し、UD-Book規格を開発し、オンラインでの利用を可能にするシステム「広大UD学習支援システム」を構築した。広島中央特別支援学校、宮崎県立明星視覚支援学校、広島市立段原小学校、広島市立早稲田中学校と連携して教材の配信を行った。

3. 研修活動・地域貢献活動

学生対象の行事

(1) 附属東雲中学校の特別支援学級に在籍する生徒の職場体験学習を受け入れた。本事業に参加した学生は19名で、生徒が行う作業の補助等を行った。

(2) 本センターと特別支援教育学領域が共同し、令和4年4月16日(土)に、広島大学にて新入生オリエンテーション領域行事を実施した。参加者は、外部講師として4名の現職教員、学部1年次生25名、2～4年次生8名、大学院博士課程前期学生2名、特別専攻科学生12名、教員10名の計61名であった。

(3) 本センターと特別支援教育学領域が共同し、令和5年7月9日(日)に「就職指導講話(マナー講座)」を開催した。参加者は、外部講師1名、学生41名(3年次生21名、4年次生20名)、特別専攻科学生1名、特別支援教育学領域教員4名の合計47名であった。

(4) 日本語・日本文化特別研修を実施し、長春大学学生10名が参加した。

(5) 令和5年度広島県立三原高等学校学問体験講座において講師を務めた。

講習・講演

(1) 令和5年度免許法認定講習会(教育委員会主催)を広島県及び県外(鳥取、岡山、愛媛)で実施した。

(2) 広島県内特別支援学校における公開授業研究会・校内研修会、県外特別支援学校(岡山、山口、神奈川)における校内研修会等(オンラインも含む)で指導助言や講演を行った。

(3) 広島県および県外(高知)の小中学校、保育園、

保育所における校内(園内)研修会で延べ15回の指導助言や講演を行った。

(4) UNESCO バリ「SDGsに向けたOERとデジタルインクルージョンを通じた障害者のエンパワーメント」でプレゼンテーションを行った。(トピック:ODLへの障害のある学習者のインクルージョンとその重要性に関する改訂ガイドライン。)

(5) インドネシア教育省 インクルーシブ教育研修会にて2回基調講演を行った。

(6) EVRIが実施する「日本国広島大学と中国長春大学との共同教育プログラム」に、「障害乳幼児の理解」(16コマ)、「障害乳幼児の指導」(16コマ)の授業を提供した。

(7) 日本体操協会 令和5年度全国障がい者トランポリン指導者研修会「行動から読み解く、障害のある人のこころ」で講演を行った。

(8) 全国聾学校教頭会総会・研究協議会において、助言者を務めた。

(9) 国立特別支援教育総合研究所 令和5年度特別支援教育専門研修において、聴覚障害教育、肢体不自由教育の講師を担当した。

(10) 筑波大学ヒューマンエンパワーメント推進局 多様な学生支援スキル育成プログラムの講師を担当した。

(11) 令和5年度中国・四国地区盲学校教育研究会(広島大会)において、指導助言を行った。

(12) 東海教育オーディオロジー研究協議会 第19回講演会で講演を行った。

(13) 愛知県肢体不自由教育研究大会において講演を行った。

(14) 令和4年度広島県発達障害啓発セミナーにおいて講師を務めた。

(15) 令和4年度岡山県小学校特別活動研究大会において講師を務めた。

(16) 香川県高等学校教育研究会特別支援教育部会において、講師を務めた。

(17) 京都スーパーサポートセンター主任研修会「見えにくさのある児童生徒に関わる指導者研修会」において講師を務めた。

(18) かがわロービジョン研修会において講師を務めた。

(19) 広島市立翠町中学校区 第2回小中合同研究会において、「学びの困難さを抱える児童生徒に寄り添う授業づくり」生徒の困り感とその支援方法(ICT活用も含む)について講師を務めた。

(20) 広島市こども未来局主催の ICT 機器活用講座において、保護者を対象に講義と演習を行った。

(21) その他、教育委員会や教育センター等で研修会の講師を担当した。内容は次のとおり。

- ・大分県教育センターオンライン研修「構音障がい、吃音のある児童生徒の理解と指導・支援」
- ・高知県教育委員会 自閉症・情緒障害特別支援学級の授業づくり支援事業
- ・岡山県総合教育センター 肢体不自由専門研修
- ・島根県立教育センター 講義演習
- ・広島県立教育センター研修 特別支援教育講座
- ・広島市教育センター 令和5年度通級指導教室等担当教員研修
- ・広島県立障害者療育支援センター 療育園の保護者研修
- ・放課後等デイサービス 職員研修

研修会、シンポジウム、ワークショップ等の開催

(1) 令和5年3月4日、「令和4年度日本特別活動学会第2回研究会」を「特別活動を中核に据えたインクルーシブナ学級づくり」をテーマに開催した。対面・オンライン含めて230名の参加があった。

(2) 文部科学省「特別支援教育に関する実践研究充実事業」のうち、「特別支援学校教諭免許状コアカリキュラムを踏まえた教師の専門性向上に係る調査研究」を受託した。関連して、広島大学特別支援学校教諭免許法認定講習を実施した。

(3) ST・ことばの教室教員を対象とした吃音臨床講習会を計4回開催した。

他機関との共催事業

(1) ダイバーシティ&インクルージョン推進機構が主催し、インド教育大学学長を招聘し、令和5年5月11日(木)にダイバーシティ&インクルージョン推進機構特別講演会を開催した。

(2) ダイバーシティ&インクルージョン推進機構が主催し、ブータンにおけるインクルーシブ教育の第一人者ニヤンド・シェリング氏を招聘し、令和5年7月11日(火)にインクルーシブ教育国際セミナーを開催した。

(3) ダイバーシティ&インクルージョン推進機構が主催し、アリゾナ州立大学教授を招聘し、令和5年10月12日(木)にダイバーシティ&インクルージョン推進機構講演会を開催した。

(4) ダイバーシティ&インクルージョン推進機構

が共催、日本吃音・流暢生障害学会が主催して、ウェストバージニア大学名誉教授を招聘し、令和5年10月31日(火)にポストコンgress・セミナーを開催した。

(5) アジアアフリカ地域の行政官・教育者向け JICA 課題別研修「乳幼児ケア」を行った。

(6) Routledge 社・EVRI 共催の論文執筆・査読プロセス解説セミナーの講師を務めた。

(7) 日本 LD 学会第32回大会(広島)の開催協力を行った。

学校等への訪問、相談活動等

(1) 広島市教育委員専門家巡回相談事業の巡回相談員として、のべ9校を訪問し、小学校と中学校教員に対する研修、助言を行ったり、オンラインでの指導サポートを行った。

(2) 広島県内特別支援学校において学校運営協議会委員(広島南、広島、西条、三原、尾道、広島西)を担当した。

学生派遣等

(1) 特別支援教育学生サポーター派遣事業を実施した。本事業に参加した学生数は23名で、東広島市内17校の小・中学校に派遣した。派遣については、事前指導(発達障害児等への指導等について)を行った。

(2) 中国・北京師範大学、中国・長春大学、韓国外国語大学、タイ・カセサート大学、インドネシア教育大学、米国セントクラウド州立大学と e-START プログラムを実施し、本学9名を含む、延べ人数79名の学生が、学校教育におけるダイバーシティ、インクルーシブ教育や社会におけるインクルージョンの在り方について学んだ。

(3) 「インクルーシブ・マインドを醸成するアジア地域国際協働人材育成2021年度大学の世界展開力強化事業」の一環として、中国・長春大学、中国・北京師範大学、韓国外国語大学と、タイ・カセサート大学、インドネシア教育大学と共同して、韓国および中国において START プログラムが実施され、本学6名、北京師範大学3名、長春大学3名、韓国義国語大学6名、カセサート大学1名、インドネシア教育大学3名の学生が、韓国および中国の歴史、文化、言語に加えて、特別支援教育の歴史と現状について学んだ。

(4) International Network of Universities が主催する国際学生セミナーに運営協力し、本学28名、オスナブリュック大学2名、キングストン大学3名、パラヒャンガンカトリック大学2名、ヴィアドリナ欧州大

学2名、ナショナル・デル・リトラル大学3名、ルビーラ・イ・ビルジーリ大学3名、デ・モントフォート大学2名、マルモ大学3名、ジェームス・マディソン大学3名、ステレンブッシュ大学1名の学生が参加し、気候変動の課題についての議論を行った。

4. 高校生の技能検定、中学生の職場体験学習等

(1) 広島県教育委員会が主催する「令和5年度広島県特別支援学校技能検定（接客）」について開催に協力した。第一回7月1日：参加予定者9名（天候不良のため中止）、第二回10月14日：参加者25名。

(2) 附属東雲中学校特別支援学級に在籍する生徒4名の職場体験学習を受け入れた。

5. 国立特別支援教育総合研究所との連携

(1) 西日本ランチ広島オフィスに勤務する研究補助員1名について、クロスアポイントメントとして本学の教育研究推進員としても雇用した。

(2) 専門研修企画会議に参加した（計6回）。

(3) 令和5年度特別支援教育専門研修（肢体不自由教育、聴覚障害教育、言語障害教育）において講師を担当した。

(4) 国立特別支援教育総合研究所、令和5年度特別支援教育推進セミナー（中国・四国ブロック）グループ協議・情報交換において、講師を担当した。